

日本情報考古学会会報 No. 33

2013 (平成 25) 年 10 月

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION NO.33 October 2013

目次

日本情報考古学会第 31 回大会報告	1
2013 年度学会賞受賞者	4
2013 年度日本情報考古学会総会報告	5
2013 年度第 1 回理事会議事録	6
会費値上げ案の凍結について	6
2013 年度会費納入のお願い	7
賛助会員 (法人等) の募集	7
『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布	8
学会ホームページのご案内	8

日本情報考古学会第 31 回大会報告

日本情報考古学会第 31 回大会が、去る 9 月 28・29 日の 2 日間、鹿児島国際大学視聴覚ホール（附属図書館 4 階）を主会場として開催されました。

今回の大会テーマは「土器研究の新視覚 — 多様な情報から過去を探る —」でした。テーマに関連して、三辻利一・鹿児島国際大学客員教授に「須恵器産地推定の方法」、中園聡・同大学教授に「土器研究における新しい視点」と題する特別講演を行っていただきました。

1 日目夕刻の授賞式で、受賞者に賞状と記念品が植木会長から贈呈されました。今年度の学会賞は、論文賞に山口文彦氏（慶応義塾大学）と中川正樹氏（東京農工大学）、優秀賞「堅田賞」に太郎良真妃氏（鹿児島国際大学大学院）が選ばれました。なお、日本情報考古学会賞は該当者がありませんでした。

その後、鹿児島市中心部のホテルに場所を移して懇親会が開かれ、立食形式で和気あいあいと行われました。参加者は分野や世代を越えて親睦を深めました。

今大会では、19 件の発表がありましたが、会場・時間の都合により今回初めてポスターセッションを設



会場入口のポスター（上）と一般講演の様子（下）。

けることとし、うち 5 件にポスター発表をしていただきました。ご理解いただいた方々に深く感謝いたします（本学会では、一般講演とポスター発表を同等の業績と認めております）。

今大会の特徴として、大学院生を含む若手の女性研究者の発表が多く、演者や筆頭著者が女性の発表が 7 割近くを占めました。これは本学会の歴史上初のことです。関連学会と比べても際立ちます。斬新な発表に刺激を受けたという声から参加者から聞かれました。こうしたことから、本学会がこれから備えるべき性格として、若手研究者に発表の場を提供し育てていくこと、併せて女性研究者の育成にも努めていくことが重要だという声も聞かれました。

今大会では Ustream による生放送の試行実験も行いました。本学会ではこれまでも取り組んできた試み

ですが、今回は諸般の事情により広く公開はしません
でした。この結果を生かして本学会として引き続き取
り組んでいきます。

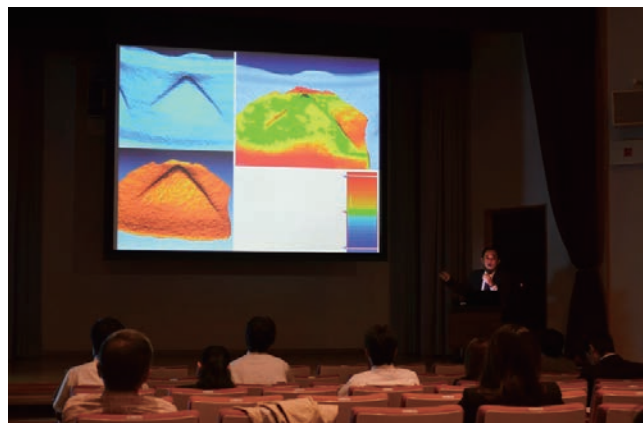
以上、今回の大会は、2日間で延べ約100名の参加
者があり、盛会のうちに終了しました。この大会の開
催に当たり、今年度から新事務局となった鹿児島国際
大学中園研究室の大学院生・学部生の皆さんにご尽力
いただいたほか、前事務局の同志社大学村上研究室の
方々にも応援をいただきました。この場を借りて感謝
申し上げます。



開会式。大会実行委員長の挨拶。



特別講演1。鹿児島国際大学客員教授 三辻利一先生。



特別講演2。鹿児島国際大学教授 中園 聡先生。



懇親会の様子。



懇親会の締めめの挨拶。



閉会式。植木 武会長の挨拶。



Ustream による発表
の同時配信を試行的
に行いました。

—大会プログラム—

テーマ：「土器研究の新視覚 —多様な情報から過去を
探る—」

9月28日(土)

開会式 13:00-13:10

開会挨拶 大会実行委員長 中園 聡

(座長：宝珍輝尚)

研究発表 1 13:10-13:30

土器製作者と製作道具の関係 — 土器製作具に関する民族考古学的調査の検討から —
平川 ひろみ (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 2 13:30-13:50

北部九州甕棺墓における埋葬行為の復元—三次元コンピュータグラフィックスを用いて—
新屋敷久美子 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

研究発表 3 13:50-14:10

蛍光 X 線分析と磁化特性による北海道の遺跡から出土した黒曜石の研究
菅頭明日香、酒井英男 (富山大学大学院理工学研究部)

(座長：黒木梨絵)

研究発表 4 14:20-14:40

型式論の標準化は可能か — 馬具編年を例に
岡安光彦 (株式会社四門 文化財事業部)

研究発表 5 14:40-15:00

高感度超伝導磁力計の文化財分析への応用 — 銅鏡の磁場計測の試み —
河合 淳、河端美樹、足立善昭、上原 弦 (金沢工業大学先端電子技術応用研究所)

特別講演 1 15:00-16:00

須恵器産地推定の方法論
鹿児島国際大学客員教授 三辻利一

研究発表 6 16:10-16:30

中国東北地区遼西地域の新石器時代中期土器を素材とした土器編年
楊 帆 (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 7 16:30-16:50

壁面からの地中レーダ探査による遺構の内部構造の研究
泉 吉紀 (富山大学大学院理工学研究部)、田上和彦 (高岡市教育委員会)、酒井英男 (富山大学大学院理工学研究部)

学会賞授賞式 16:50-17:00

懇親会 18:30-20:30 於 ホテルタイセイアネックス

9月29日(日)

(座長：佐藤宏介)

研究発表 8 10:00-10:20

土器スタイルにおける模倣と共有のメカニズム — 土器製作場面でのミラーリング —
平川ひろみ (鹿児島国際大学大学院)、中園 聡 (鹿児島国際大学)

研究発表 9 10:20-10:40

土器形態における低視覚的属性の検討 — 製作者の態度に関する認知考古学的視点 —
黒木梨絵 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

研究発表 10 10:40-11:00

焼土の磁化から探る焼失竪穴住居・土屋根の落下状況の研究
酒井英男、菅頭明日香 (富山大学大学院理工学研究部)、小黒智久 (富山市教育委員会埋蔵文化財センター)

特別講演 2 11:00-12:00

土器研究における新しい視点
鹿児島国際大学教授 中園 聡

総会 12:00-12:30

ポスターセッション 13:00-13:40 研究発表は次頁記載。

(座長：新屋敷久美子)

研究発表 11 13:40-14:00

考古学データベースシステムにおける異種データベースの統合的な利用について
王 鑫、宝珍輝尚、野宮浩揮 (京都工芸繊維大学)

研究発表 12 14:00-14:20

Kinect を利用したウェアラブル形状計測システム SENS-Wiper の試作
池田 聖、森多花梨、吉元俊輔、岩井大輔、佐藤宏介 (大阪大学基礎工学研究科)、三瓶裕司 ((公財) かながわ考古学財団)

研究発表 13 14:20-14:40

弥生土器形態の空間的検討による様式把握とその有効性
太郎良真妃 (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 14 14:40-15:00

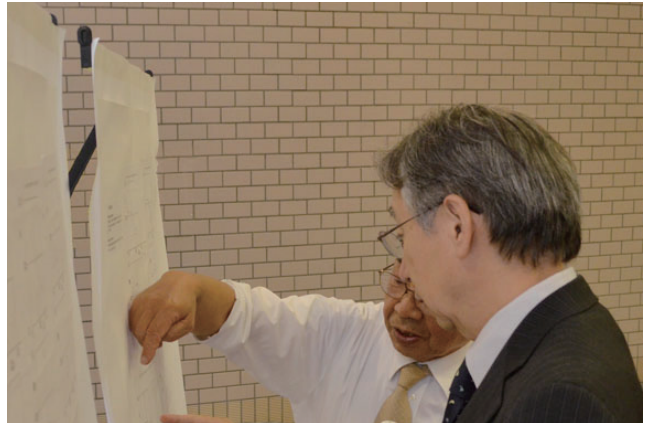
北タイにおける土器製作者身体技法の記録と解析 — モーションキャプチャを用いて —
川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター)、平川ひろみ (鹿児島国際大学大学院)

閉会式 15:00-15:10

閉会挨拶 日本情報考古学会会長 植木 武



今大会で初めて実施されたポスターセッション。会場の様子。



ポスター発表。ベテランも熱の入った議論。



ポスターセッション会場での関連展示。世界各地の伝統的土器。



ポスター発表。若手も分野を超えて熱心に議論。

ポスターセッション

研究発表 15

電磁気探査による夷王山墳墓群の研究

中村和之（函館工業高等専門学校）、泉吉紀（富山大学大学院理工学研究部）、塚田直哉（上ノ国町教育委員会）、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）

研究発表 16

仏像の計量分析 — 平安後期・鎌倉期の造像様式の特徴比較 —

上田晴奈（同志社大学大学院文化情報学研究科）、村上征勝（同志社大学文化情報学部）

研究発表 17

土器形態における製作者の個人内変異と個人間変異 — 北タイの伝統的土器製作から —

中園聡（鹿児島国際大学）、太郎良真妃、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）、川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

研究発表 18

縄文土器胎土に地域差はあるか？

三辻利一（鹿児島国際大学）、太郎良真妃、平川ひろみ、楊帆（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 19

土器胎土における製作者の個人内変異と個人間変異 —

北タイの伝統的土器製作に関する蛍光 X 線分析 —

中園聡（鹿児島国際大学）、平川ひろみ、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

ポスターセッション会場では、今大会のテーマにちなんで、世界各地の民族資料としての伝統的土器に関する展示コーナーも設けられ、土器談義に花が咲いていました。

2013 年度学会賞受賞者

2013 年度の学会賞は次の方々に決まり、第 31 回大会（於 鹿児島国際大学）において、9 月 28 日夕刻、授賞式が行われました。

学会賞 該当者無し

論文賞 山口文彦「ロンゴロンゴとイースター島の古謡のシラブル列との統語論的対応づけ」
中川正樹「同」

優秀賞（堅田賞） 太郎良真妃「多変量解析による土器様式の空間的検討」



学会賞授賞式。論文賞山口文彦氏。



学会賞授賞式。優秀賞「堅田賞」太郎良真妃氏。

2013 年度日本情報考古学会総会報告

2013 年度日本情報考古学会総会を以下の通り行いましたので、お知らせいたします。

日 時：2013 年 9 月 29 日（日） 12:00 ～ 12:30

場 所：鹿児島国際大学 視聴覚ホール

冒頭、緒方俊輔会員が議長に選出され、以下の議題について審議された。

議題

1. 2012 年度会計報告について
三辻利一監事（2012 年度）より、監査の結果、適正に会計が処理されていた旨の報告があり、承認された。
2. 2013 年度予算案について
前事務局より説明があり、承認された。
3. 学会費の値上げについて
正会員の会費値上げ案が今総会に提出される予定であったが、前日の理事会で再審議の結果、値上げ案は当面凍結されることとなった旨、植木会長より説明があり、承認された（6 頁「会費値上げ

日本情報考古学会平成 24 年度決算報告書

収入		支出	
繰越金	961,208	情報考古学第 17 巻 1・2 号印刷費	420,000
会費 (含前受取分)	646,000	日本情報考古学会会報 28 号印刷費	10,500
大会開催費 (含懇親会費)	102,500	第 30 回大会講演論文集印刷費	57,750
冊子売上	8,000	大会開催費 (含懇親会費, 学会賞副賞代)	161,419
利息	65	事務局維持費 (含アルバイト代, 管理費等)	298,562
雑収入 (広告費, 展示費)	10,000	講師謝礼金	70,000
立替分	71,950	送料	185,610
		手数料	2,520
合計	1,799,723	合計	1,206,361
		※次年度繰越金	593,362

※平成 25 年 3 月 31 日現在, 平成 24 年度分の学会誌(¥420,000)は未払い

日本情報考古学会平成 25 年度予算

収入		支出	
繰越金	593,362	情報考古学第 18 巻 1・2 号印刷費	420,000
※会費	770,000	情報考古学第 19 巻 1・2 号印刷費	420,000
大会開催費	100,000	第 31 回大会講演論文集印刷費	100,000
冊子売上	10,000	大会開催費	150,000
雑収入	10,000	事務局維持費	300,000
		講師謝礼金	50,000
		送料	160,000
合計	1,483,362	合計	1,600,000
		次年度繰越金	-116,638

※会員数 (220) × 0.7 × 会費 (5000) で計算

案の凍結について」参照)。

4. 学会誌の電子化と冊子体の廃止について
宝珍理事より、今年度は紙媒体に加え電子媒体を出すのが、来年度より紙媒体はオンデマンド化して存続し希望者は経費自己負担とする予定であることが説明され、承認された。
5. 日本情報考古学会会則の改正について
所在地変更のため、第 2 条の「本会の所在地は、当分の間同志社大学文化情報学部とする」を「本会の所在地は、当分の間鹿児島国際大学とする」に変更する案が、事務局より提案され、全会一致で承認された。

2013 年度第 1 回理事会議事録

2013 年度第 1 回日本情報考古学会理事会を以下の通り行いました。

日 時：2013 年 9 月 28 日（土）10:00～12:57

場 所：鹿児島国際大学 附置地域総合研究所会議室
（附属図書館 4 階）

出席者：植木 武（議長）、佐藤宏介、岡安光彦、川宿田好見、中園 聡、宝珍輝尚、三瓶裕司、三辻利一、村上征勝、横見博之（監事）、平川ひろみ（事務局より陪席）

1. 報告

1. 2013 年度学会賞の選考について

学会賞は、下記のように決定されたことが報告された。

学会賞 該当者無し

論文賞 山口文彦「ロンゴロンゴとイースター島の古謡のシラブル列との統語論的対応づけ」
中川正樹「同」

優秀賞（堅田賞） 太郎良真妃「多変量解析による土器様式の空間的検討」

2. 審議事項

1. 2012 年度会計報告（案）について

村上・前事務局長より提案・説明がなされ、承認された。

2. 2013 年度予算案について

前回理事会で大筋承認済だったが未確定部分を正して提示。村上・前事務局長より説明、承認された。

3. 学会費の値上げ（案）について

前回理事会案では会費を現行の 5000 円から 8000 円に値上げすることになっていたが、総会への提出に先立ち再度慎重に審議した。当面は経費削減と積極的収入増に取り組むことになり、①補助金を得よう諸条件を確認すること、②会員増に取り組むこと、③賛助会員募集に取り組むことなど具体的方策を含め話し合われた。結論として、そうしたぎりぎりの努力が先決であり、当初の値上げ案は少なくとも 1 年は凍結する。

4. 日本情報考古学会会則の改正について

所在地変更のため、第 2 条の「同志社大学文化情

報学部」を「鹿児島国際大学」に変更する旨、承認された。

5. 学会誌の電子化について

継続審議。今年度は紙媒体に加え電子媒体を出すのが、来年度より紙媒体はオンデマンド化して存続し希望者は経費自己負担とする。

6. 分科会の創設について

継続審議。植木会長より分科会創設の具体案の提示があった。検討の余地があるため、ワーキンググループを作り具体案を練ることになった。

7. 『情報考古学シリーズ』の刊行（継続）について

継続審議。分科会ごとに出すなどの意見が出された。さらに継続審議とする。

8. 論文の学会誌掲載有料化について

継続審議。投稿料は当面徴収せず、検討を続けることになった。さらに継続審議とする。

9. MMB パックを利用した会員間のコミュニケーションについて

3 で同時に審議した。

10. 大会の IT 公開について

Ustream での大会の発表の生放送について、今回、一部試行的に実施することが了承された。

11. その他

シンポジウム・大会の今後の実施方法について話し合われた。

また、今回の大会を機に新規入会申込者が十人ほどあり手続きを進めることになった。

会費値上げ案の凍結について

会員の皆様

さきに、正会員の会費を来年度分から値上げする案が昨年度末の理事会で決まり、総会で提案される旨お伝えしておりました（『会報』No.32）。しかし、重大な案件ですので、慎重を期して再び、去る 9 月 28 日開催の理事会で慎重に審議いたしました。その結果、この値上げ案は当面「凍結」することに決し、翌 29 日の総会で承認されるに至りました。したがって、正会員の会費は少なくとも来年度は、これまで通り 5000 円に据え置きます。

以上の決定に至った理由につきましては、次のように判断したためです。本学会の財政は厳しい状況であることに変わりはありません。しかし、会員の皆様にご負担をお願いする前に、更にできることはないかと、様々な角度から今一度、慎重に分析・精査いたしました。その結果、いっそうの経費節減と積極的な収入増加策などに、学会としてぎりぎりの工夫と努力をしていくことで、当面を乗り切ることができる可能性が残っていると考えました。

支出の無駄を押さえることは大切ですが、学会運営における様々な面で、従来の方式を無批判に踏襲するのではなく、柔軟な発想をもって運用することはさらに重要なこととなります。また、会員増加策に努め、若い研究者・大学院生等にとって魅力ある学会となるように工夫することは重要な課題です。そうした若手会員の増加については本学会の活性化と長期的持続のためにも、至急取り組んでいきます。会員増加策の一環として、本学会を財政的に援助していただく賛助会員（法人等）を大幅に増やすよう働きかけ、それに伴い必要な手続きの見直しや整備をすることにも取り組みます。その他、補助金を学会として得よう働きかけたりその条件を整備すること等を含め、本格的に収入増加策に努めることにしました。一方、本学会の知名度をさらに上げ、学界で確固たる地位を占める戦略にも取り組んでまいります。

以上のように、学会として覚悟をもって取り組んでいくことに決しました。今回の決定は会費値上げ案の「凍結」であり、今後の状況によっては値上げせざるを得ないこともあり得ます。しかし英知を集め、乗り越える努力をしたいと思いますので、会員の皆様には、一層のご理解とご協力を切にお願いいたします。

2013 年度会費納入のお願い

会報 No.31 で 2013 年度会費納入（正会員 5,000 円、準会員（学生会員） 3,000 円）のご案内をいたしました。未納の方は下記の振込先に納入願います。安定した学会運営のために、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

また、本学会では会員の増加に取り組んでおります。

皆様のご協力をお願いいたします。

銀行振込

南都銀行 京田辺支店 普通口座 0301986

口座名：日本情報考古学会事務局

ゆうちょ振込

01040-2-30981

名称：日本情報考古学会事務局

コンビニエンスストア

来年度会費より可能（手数料 525 円が発生します）。今年度よりご使用の方は事務局までお問い合わせください。

※今年度会費の納入状況は、本学会ホームページの会員管理システムをご覧ください。

賛助会員（法人等）の募集

本学会では賛助会員を募集しています。賛助会員になっていただいた法人等には、下記のような特典・メリットがあります。会員各位におかれましては、お心当たりの法人等がありましたら、ぜひご案内いただきますようお願いいたします。

また、このたび本学会では、賛助会員の案内（「賛助会員入会の手引き」）を整備するとともに、入会申込書を大幅に見直しました。本学会ホームページに新しい様式等を掲載しましたので、ご覧ください。

【以下、「賛助会員入会の手引き」より要約】

本学会では、本会の事業に賛同し、財政的援助をしていただく法人等を賛助会員としてお迎えています。

賛助会員の特典

1. 貴団体が本学会を賛助されている旨を記した本学会ホームページの賛助会員一覧に、貴団体名とバナー（ロゴ）を掲載できます。
2. 上記バナーは、貴ホームページへのリンク付きバナーとします。
3. 刊行物（『情報考古学』、『講演論文集』、『会報』等）の賛助会員一覧に貴団体の名称またはバナーを掲載できます。
4. 上記刊行物に広告を載せることができます。賛助会員の広告掲載料は割引します。

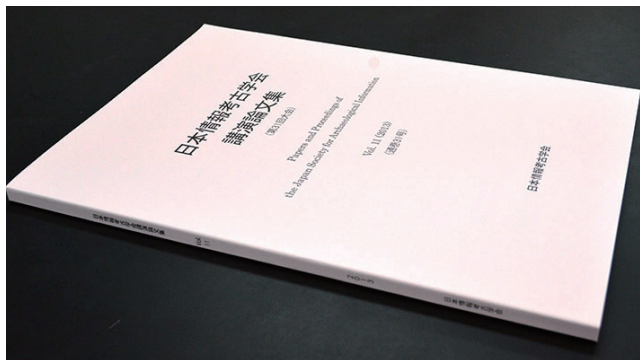
5. 大会・シンポジウム等の際に、賛助会員の出展料は割引します。
6. 貴団体所属の方は、会費口数に応じて、定められた人数の範囲で、大会に正会員参加費で参加できます。
7. 以上のほか、本学会が企画・主催する事業等がある場合、ご案内を差し上げます。

賛助会員会費

賛助会員の会費(年会費)は、20,000円(1口)以上です。会費口数に応じて、お送りする刊行物の数や、ホームページ上のバナーのサイズ、大会参加可能人数が変わります。詳細は、本学会ホームページ <http://www.archaeo-info.org/> をご覧ください(「学会」→「入会」をご覧ください)。

『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布

このたび、第31回大会に合わせて『日本情報考古学会講演論文集』Vol.11(2013)(通巻31号)が発行されました。第31回大会の発表に関する論文が収録されています。今回はいつもより重厚で、136ページです。頒価2000円(送料実費)です。まだ残部があります。



すので、会員で大会当日に入手できなかった方は、ぜひお申し込みください。また、会員以外でも関心のある方はどなたでも入手できます。

お申し込み・お問い合わせは事務局まで。なお、売り切れの場合はご容赦下さい。

学会ホームページのご案内



学会ホームページには新しい情報が掲載されますので、ぜひ学会ホームページをチェックしていただきますよう、お願いいたします。

<http://www.archaeo-info.org/>

※事務局の所在地・連絡先については、下記奥付に記載のとおりです。ご連絡の際は、できるだけE-mailをご利用ください。

日本情報考古学会会報 No.33
 2013年10月23日
 発行 日本情報考古学会事務局
 〒891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1
 鹿児島国際大学 中園聡研究室内 日本情報考古学会事務局
 Tel 099-261-3211 (Ext. 5113) Fax 099-261-3299 (代表)
 E-mail: archaeoinfoiuk@gmail.com
<http://www.archaeo-info.org/>